

ベトナム

科学技術省大臣

H.E. Dr. Hoang Van Phong

原子力エネルギーの平和利用が人類に極めて大きな利益をもたらしたのは事実である。ここ数年間のわが国の実情を見ると、経済、科学、技術開発は、緩やかではあるが、原子力科学技術はさまざまな分野で広く研究が進み効果的に応用されており、わが国の社会的経済的成長と人々の生活水準向上に多大な貢献をしてきた。フォーラムの活動、わが国における原子力科学技術利用による成果を多とするものである。

ダラト研究炉は、1984 年の改造と出力増強以来ここ 20 年間、安全な運転で効果的に活用されてきた。現在では、研究と訓練目的に加えて、20 以上の RI や放射性薬剤が毎年原子炉から生産され、10 万人に及ぶ患者の診断や治療に使われている。さらに、FNCA 加盟国からの科学者を含む海外からの多数の専門家を受け入れ、原子力研究所で専門的な訓練や実習、技術交換が行われている。

農業分野では、原子力技術の研究、効果的な応用によって多くの植物の品種改良、植物の成長促進剤やバイオを利用した増殖剤の生産、土壌や水の管理、家畜の病理研究に役立ってきた。いくつかの農作物で有用な新品種が原子力技術によって作られた。高収穫率、高品質、さまざまな環境に適応性の高いコメの品種改良が一つの例である。農業におけるこの種の成果は、食糧セキュリティ、コメの輸出、飢餓の絶滅、貧困の緩和に関する国家プログラムの成功に寄与してきた。

原子力技術はいくつかの工業、建設、輸送の分野でも広範囲に応用されてきている。とりわけ、重油や天然ガスの調査・開発の効率化を狙った最近の研究に活用されている。2004 年に科学技術省（MOST）は、非破壊検査（NDT）の研究、訓練、応用技術の向上のため、ベトナム原子力委員会（VAEC）に資金を投入し近代的な NDT センターを建設した。

保健の分野では、20 以上の原子力医療部門の全国ネットワークを構築し、公衆の保健管理に効果を上げている。がん治療用の高度な技術、例えば、加速器を用いた放射線療法も導入した。保健管理分野でのハイテク技術応用を促進するため、政府は PET-サイクロترونセンター 2 カ所の建設計画を承認しました。一つはハノイの 30MeV センター、もう一つはホーチミン市の 18MeV センターである。

放射線技術の応用に関連しては、高い経済性を示したホーチミン市の放射線センターの

成功に続いて、電子ビーム加速器技術と Co-60 放射線源を使用した 2 つの照射センターが南部地方に建設された。2004 年、MOST は、北部での照射技術の研究と開発と応用を促進するため、ハノイ照射センターの高度化に多額の予算を投入した。

水分地質学や環境の研究では、同位元素技術を応用して首都ハノイ、ホーチミン市、南部デルタ地方の地下水管理、適切な利用に役立てている。これらの研究のため、MOST は VAEC に最新のマススペクトロメーターを設置した。この装置は、IAEA の専門家の評価によれば、この地域で最新鋭といえるものである。われわれは、この分野で他の各国と協力してゆきたいと考えている。この数年、原子力技術を使った環境面での研究は、放射線環境測定、環境汚染源の特定や評価、廃棄物処理技術の提案の中で非常に大きな成果を得ている。

放射性廃棄物や使用済放射線源の管理は、国際基準にしたがって順次強化されてきた。現在、使用済放射線源の統計処理作業は完了している。放射性廃棄物貯蔵施設も強化され高度化した。

原子力に関する人材養成はわが国における原子力エネルギーの研究・開発や応用で最も重要な因子の一つと考えており、高い優先順位を与えている。原子力エネルギー開発計画のための人材訓練に関する国の長期計画は、MOST のガイドラインに沿って策定途上にある。原子力エネルギーの研究、開発、応用、訓練所間の協力を強化し促進してきた。IAEA の RCA, FNCA の枠組下での多国間協力や日本や韓国との二国間協力で、社会経済面、放射線防護および原子力安全、原子力法規の整備、放射線による環境測定への原子力技術応用のための専門家訓練に格好の場を設けることができた。VAEC のダラトとハノイの訓練センターがわが国原子力専門家の訓練にフル活動している。昨年 1 年間で、数百人のベトナム人専門家が、国際協力計画のもとで行われる海外での原子力に関する短期、長期の訓練コースに参加している。

安全文化と情報公開についても多くの重要な活動があった。ここ 1 年、MOST はダラト研究炉やいくつかの原子力施設に認可を出した。ダラト原子炉の 20 年間に及ぶ安全な運転の評価から得た貴重な経験と教訓は、わが国の原子力施設における安全文化の改善に役立っている。将来の原子力発電開発に役立てるため、2004 年 5 月にはハノイで原子力発電技術の国際展示会を開催した。それには、フランス、日本、韓国、ロシア、インドの各国および IAEA が参加した。6,000 名以上の見学者が展示会に訪れ、その中の 200 名は国会代表団でした。これは、ベトナムに原子力発電を導入するための研究プログラムに対し社会的な認識、受容性、支援を高めるのに重要な活動であった。

長期的な国の原子力エネルギー開発プログラムを策定するため、「2020 年までの原子力エネルギー開発戦略」および「ベトナムにおける原子力発電初号機プロジェクトのプレ・フィージビリティ・スタディ報告書」の作成作業が、政府への提出に向けて MOST と工業省により完了しようとしている。原子力法規を整備するためのプロジェクトも MOST および関係官庁によって進めており、2007 年には終了して精査と承認のため国会に上程される計画である。

原子力エネルギー開発と利用の重要性と必要性に鑑み、ベトナム政府は、「2010 年までのベトナム科学技術開発戦略」の中で、原子力エネルギーの平和利用のための研究、開発および利用を、8 つの重点施策の一つとすることを決定しました。

その戦略から見て、原子力エネルギー、放射線防護、原子力安全に関わる国家管理の強化に合わせて、ベトナム政府はここ 1 年、原子力エネルギー R&D 機関の能力を増強し、原子力技術を社会経済面、公衆保健、環境保護への応用を助けるために前向きの政策を立案し相当の予算を投入した。

現在の世界的な潮流の中で、原子力エネルギーの利用を平和目的に限ることを確かなものにするためには国際協力が極めて重要である。それゆえにベトナムは、原子力エネルギーに関する国際協力が、わが国の原子力開発のための重要な糧であると考え、心から感謝している。ここ数年間における世界でのベトナムの威信と地位の向上とともに、FNCA を含む、わが国と各国、国際機関、地域の原子力機関との間での原子力エネルギーに関する国際協力がさらに進んできたことは、MOST にとって大変な喜びである。

原子力国際協力とこの地域での持続的発展に果たす FNCA の役割と貢献に心を留め、ベトナムは FNCA 活動へ積極的に参加し必要な資源の提供を約束す